

執筆者紹介

佐藤 香 東京大学社会科学研究所 教授

主著 佐藤香編著『格差の連鎖と若者 第3巻 ライフデザインと希望』（勁草書房, 2017年）、相澤真一・渡邊大輔・石島健太郎・佐藤香編『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』（東京大学出版会, 2024年）

相澤 真一 上智大学総合人間科学部教育学科 教授

主著 『<高卒当然社会>の戦後史』（共著, 新曜社, 2014年）、『子どもと貧困の戦後史』（共著, 青弓社, 2016年）、『総中流の始まり—団地と生活時間の戦後史』（共編著, 青弓社, 2019年）、『岩波講座 社会学 階層・教育』（共編著, 岩波書店, 2024年）、『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』（共編著, 東京大学出版会, 2024年）

太田 昌志 追手門学院大学共通教育機構 常勤講師

主著 「政治的社会化」善教将大編『政治意識研究の最前線』（法律文化社, 第1章, 2025年）、「主権者教育としての話し合い活動における多数決の課題」『子ども社会研究』28巻, pp.119-139 (2022年)

小山 裕 東京大学大学院総合文化研究科 准教授

主著『市民的自由主義の復権』（勁草書房, 2015年）

森 直人 筑波大学人文社会系 准教授

主著 『公教育の再編と子どもの福祉1「多様な教育機会」をつむぐ—ジレンマとともにある可能性』（共編著, 明石書店, 2024年）、『公教育の再編と子どもの福祉2「多様な教育機会」から問う—ジレンマを解きほぐすために』（共編著, 明石書店, 2024年）

渡邊 大輔 成蹊大学文学部現代社会学科 教授

主著 『ソーシャルキャピタルと格差社会—幸福の計量社会学』（共著, 東京大学出版会, 2014年）、『計量社会学入門—社会をデータでよむ』（共編著, 世界思想社, 2015年）、『変貌する恋愛と結婚』（共著, 新曜社, 2019年）、『総中流の始まり—団地と生活時間の戦後史』（共編著, 青弓社, 2019年）、『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』（共編著, 東京大学出版会, 2024年）

角崎 洋平 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授

主著 「低所得者の金融排除と金融ウェルビーイング—ファイナンシャル・ダイアリー調査に基づく分析と考察」『大原社会問題研究所雑誌』738号, pp.19-36 (2020年)、「生活の安定と貸付—生活困窮者への貸付はどう位置づけられてきたか／位置づけることができるか」『福祉社会学研究』20号, pp.53-71 (2023年)

石島健太郎 東京都立大学人文社会学部社会福祉学研究室 准教授

主著 『考える手足—ALS患者と介助者の社会学』（晃洋書房, 2021年）、『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』（共編著, 東京大学出版会, 2024年）

堀江 和正 東京大学高大接続研究開発センター 特任研究員

主著 「『調査員』を中心に社会調査を描きなおす—神奈川調査シリーズにおける民生委員の役割に着目して」相澤真一・渡邊大輔・石島健太郎・佐藤香編『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』（東京大学出版会, 2024年）、「社会福祉基礎構造改革以降における民生委員活動の変化とその地域差—福祉行政報告例の自治体別統計に着目して」『大原社会問題研究所雑誌』767・768合併号, pp.75-93 (2022年)

瀬戸健太郎 立教大学社会学部 助教

主著 「『ブルーカラーのホワイトカラー化』は内部昇進の拡大を伴ったのか？—大企業ブルーカラーの昇進構造に着目した計量分析」『社会政策』16巻3号, pp.153-165 (2024年), 「企業規模は仕事の質と賃金の配分をどのように規定するのか—二重労働市場からのアプローチ」『社会学評論』73巻3号, pp.230-245 (2022年)

前田 一步 聖心女子大学現代教養学部 専任講師

主著 「団地のなかの児童公園—高度経済成長期の外遊びをめぐる生活時間データの分析」『戦後日本の貧困と社会保障—社会調査データの復元からみる家族』(東京大学出版会, 2024年), 「新聞記事にみる近代東京・都市公園の話題変遷—長期・記事見出しデータへのトピックモデルの適用」『テキスト計量の最前線—データ時代の社会知を拓く』(ひつじ書房, 2021年)

魚住 知広 東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程

主著 “Erich Fromm and American Individualism”, Fromm Forum, 23巻, pp.177-181 (2019), 「若年労働者における転職意向の規定要因について—二重構造論の視点から」『SSJDA Research Paper Series』67巻, pp.103-116 (2019)

菅沼 明正 九州産業大学地域共創学部 講師

主著 「文化財制度と近代ツーリズム—戦前期における京都と奈良の観光と文化財鑑賞」『人文學報』120巻, pp.95-129 (2023年), 「紀元二六〇〇年における奈良県の「聖地」参拝者像」『交通史研究』95巻, pp.35-60 (2019年), 「修学旅行とナショナリズム—戦後の奈良・京都への旅行の再開・拡大過程」17巻1号, pp.276-297『Keio SFC journal』(2017年), 『鉄道史大事典』(共著, 朝倉書店, 2024年)

仁田 道夫 東京大学名誉教授, 元社会科学研究所教授, 同所長

主著 『日本の労働者参加』(東京大学出版会, 1988年), 『変化のなかの雇用システム』(東京大学出版会, 2003年)

平島 健司 東京大学名誉教授

主著 『ワイマール共和国の崩壊』(東京大学出版会, 1991年), 『ドイツ現代政治』(東京大学出版会, 1994年), 『EUは国家を越えられるか』(岩波書店, 2004年), 『国境を超える政策実験』(編, 東京大学出版会, 2008年), 『ドイツの政治』(東京大学出版会, 2017年), 「交渉デモクラシーへの道—西中欧における労働運動の組織化」『社会科学研究』第75巻 (2024年)

齋藤 宙治 東京大学社会科学研究所 准教授

主著 『子どもと法—子どもと大人の境界線をめぐる法社会学』(東京大学出版会, 2022年), “Loss Aversion for the Value of Voting Rights: WTA/WTP Ratios for a Ballot,” 69 International Review of Law and Economics (2022), 「子どもの各種法定年齢をめぐる一般人の法意識」法社会学 84号 (2018年)

澤出成意人 東京大学大学院法学政治学研究科博士課程, 日本学術振興会特別研究員

主著 「法社会学の中の法解釈論: 「法解釈論の社会学」の沿革・方法論・射程」法社会学 91号 (2025年) 所収

ティアン ユンチェン (Tian, Yunchen) 国際日本文化研究センター外来研究員, JF-日文研フェロー

主著 Tian, Yunchen. 2019. “Workers by Any Other Name: Comparing Co-Ethnics and ‘Interns’ as Labour Migrants to Japan.” Journal of Ethnic and Migration Studies 45(9): 1496-1514. Chung, Erin Aeran, Darcie Draudt, and Yunchen Tian. 2023. “The Developmental Migration

State." *Journal of Ethnic and Migration Studies*, December. Chung, Erin, James F Hollifield, and Yunchen Tian. 2023. "Migration Governance in East and Southeast Asia." *International Relations of the Asia-Pacific*, September. Chung, Erin Aeran, Darcie Draudt, and Yunchen Tian. 2020. "Regulating Membership and Movement at the Meso-Level: Citizen-Making and the Household Registration System in East Asia." *Citizenship Studies* 24(1): 76-92.